

岡山に根付かせた8年。次は、岡山市の日常へ

1 / 2

世界基準の技術 × 県北の普及実践 × スポーツ教育DX

第11回 おかやま協働のまちづくり賞

応募ストーリー

県北でプレー人口と担い手を育てた実績を、岡山市で『誰もが安全に続け、次の初心者を迎える仕組み』へ。
単発イベントではなく、実践→知識化→研究→測定→改善を循環させる岡山発モデルである。

7→25名

美作大学部の成長
2018年発足・現在

優勝

国内・海外大会で実績
競技と普及を両立

配布済

初心者向けガイド
知識の社会還元

26名

9月AI測定会申込
延べ41枠・実施前

実績の連続性

競技成績だけでなく、教育・交流・担い手育成まで積み重ねてきた



二団体の強みを、岡山市の成果へ変換

JEDPA

岡山市内の拠点・全体企画
ガイド・研究・AI測定
評価・公開・横展開

美作大学部

世界基準の技術・安全管理
競技・普及指導
学生リーダーと8年の実践知

地域の変化

安心して初参加
世代を越えて交流・再参加
次の初心者を迎える側へ

根拠・事実区分

実績 2017-2026の活動、7→25名、国内外大会実績、ガイド作成・配布

進行中 学会設立準備委員会で、けが予防・地域おこしとの接続を研究調査

実行確定 9月AIフォーム測定会2回（26名・延べ41枠申込、8月29日現在）

出典：谷口陽子先生提供資料／美作大学公式サイト（2017・2019・2020・2023）／ピックルボール日本連盟公開情報

人が変わる。だから、続く・広がる

2 / 2

過去大賞に共通する『明確な課題・見える行動・人の変化・継続性』を一体で設計

第11回 おかやま協働のまちづくり賞

中心に置く人の変化

運動に自信がなく、一人では参加できなかった人が、同じコートで会話し、再参加し、やがて次の初心者を迎える側になる。AIは主役ではなく、この変化を支える道具として使う。

審査5基準への回答

1

協働力

美作大学部の技術・安全・学生と、JEDPAの岡山市拠点・ガイド・研究・測定を明確に分担。

2

成果・効果

7→25名、国内外大会実績、ガイド配布、26名申込。今後は人の変化を5指標で確認。

3

持続性

体験→交流→再参加→担い手化。実践知をガイド化し、四半期ごとに改善・公開する。

4

独創性

世界基準の技術に、けが予防・地域おこし研究とAIフォーム測定を接続する岡山発モデル。

5

テーマ整合

多世代交流、健康づくり、大学の地域貢献、学生の担い手育成を同時に実現する。

成果をつくる運営サイクル

AI測定は、上達支援・けが予防・継続支援のために限定して活用

1

安心して試す

ガイド＋安全説明

2

人とつながる

交流ゲーム＋対話

3

振り返り続ける

AI＋次回案内

4

迎える側になる

学生・地域リーダー

初年度KPI

参加

初参加者／年代／岡山市内参加者

各回15-30名

継続

再参加率／次回参加意向

再参加率40%以上

安全

負傷・ヒヤリハット／安全理解

毎回事後確認

交流

新しく会話し相手／世代の広がり

毎回事後確認

担い手

指導・受付・安全管理を担う人材

初年度6名

9月AI測定会は美作大学での先行実証。成果と運営知を岡山市内の体験・交流会へ移し、四半期ごとに改善する。